11月　園だより

社会福祉法人まりも会
まりも保育園
2022年11月

好書好日より　以下、絵本作家：浜田桂子さん「へいわってどんなこと？」インタビュー記事からの抜粋

この本は「日・中・韓平和絵本」シリーズとして作られました。前段として 2004 年、イラク戦争の自衛隊派遣への抗議として、絵本作家 103 人が参加して『世界中のこどもたちが 103』(講談社)という本を作ったのです。以降、当時の首相の靖国神社参拝や従軍慰安婦の教科書記述削除などの問題が相次いで起きたため、絵本作家の田島征三さん、和歌山静子さん、田畑精一さんと私で、中国と韓国の絵本作家たちに手紙を書きました。そこで両国の絵本作家たちに受け入れられ、プロジェクトがスタートしました。

南京会議の際には、各国の出版社も決まり、編集者も同行していました。私たち日本の作家たちは「言い出しっぺなのだから、きちんと準備をしなければ」と事前合宿をして、各自ダミー本を作って行ったのですが、他の作家さんたちも皆、プロットを用意していましたね。以降、私自身、試作だけでも 10 冊以上書きなおしました。

打ち解けあい、本音で語り合えるようになったからこそ分かったことは沢山あります。ひとつは「戦争を“被害を受ける”ととらえている」という批判です。最初のプロットでは「へいわって　せんそうする　ひこうきが　とんでこないこと」「そらから　ばくだんが　ふってこないこと」と受け身で描いていたんです。そこに大きな爆弾の広がる様子を描きました。それも「原爆に見える」と批判されたのです。

最初はなぜ批判されるのか分からず、「ああ、私のことをまだ分かってくれていないのだ」と受け取っていたのですが、話し合う中で日本人は戦争を「被害者意識」として捉えているのだ、と気づきました。そして原爆は「（世界で）唯一の被爆国」という言葉で、ただでさえ少ない日本人の加害意識を払しょくしているのだ、ということも分かってきました。それが日本の植民地支配や武力侵略、慰安婦問題や徴用工問題について追及する声を弱めていると、そのように捉えられている側面もあるのです。

彼らとの話し合いの中で、「被害認識も戦争の実相を知る上で大事だけれども、本当に戦争を拒否するためには、加害意識を持つことが必要だ」と思うようになりました。被害認識は非常に危うくて、例えば、「家族が殺された、ごはんも食べられなくなった。だから戦争に立ち向かわなければ」と反転する可能性だってあるわけです。戦争には必ず、「正義のために戦う」という大義名分がつきます。その大義名分で、家では優しいお父さんが、ひとたび戦争になると、敵の子どもや女の人を殺したり、村に火を放ったりしてしまうのです。

戦争という一つの狂気、その命令システムの中で、人間の持っている善なるもの、美しいものは全部押し殺して、殺さなければ殺されるという中で人間性がゆがめられる。――加害を意識するということは、個人の資質に関わらず、こうした状況下になると変わってしまうということを学ぶということです。その学びが、戦争そのものを拒否する力になると思いました。

だから、決定稿では、「せんそうを　しない」「ばくだんなんか　おとさない」と端的に、力強く書きました。これは、私ひとりではできなかったことです。

この絵本では、作家の田畑さんからの指摘も、とても大事でした。最初、私が作っていたプロットの中には、「へいわって　ひとりぼっちにしないこと」という文があったんです。ひとりぼっちというのは、疎外とか仲間外れという意味で作った場面で

す。ところが田畑さんは「ひとりぼっちというのは、とても大事。浜田さんの意図もわかるけれども、戦争が始まるとひとりぼっちにしてくれないんだよ」っておっしゃる。「僕はそれを身をもって体験してきた」と。

田畑さんは軍国少年として育ち、戦後どう生きるかに苦しまれたのです。それを聞いて私はハッとしたんですね。一人の意見とか、個というものがつぶされて、みんなと違うことをすると「おかしい」となり、「非国民」という言葉がかぶさってくる。みんなと一緒でないと攻撃される。それが戦争なのだと。

もちろん仲間外れはよくないことですが、根本的な一人というものはしっかり持っていること、個人の尊厳が守られるということ。それが平和だと。それで、その場面をはずしました。

※↓絵本、本文

「嫌な事は嫌だって１人でも意見が言えること」

「平和って僕が生まれて良かったっていうこと　君が生まれて良かったっていうこと　そしてね君と僕は友達になれるっていうこと」

８月、きりんぐみが「へいわまつり」を企画、準備していた頃、全国合同研究集会（ちいさいなかま発行のもととなった保育の集会です。）が開催されていました。その中で記念公園として、【へいわってどんなこと？―絵本で伝えたい　いのち・へいわ・けんり浜田 桂子（絵本作家・画家）】というものがあり、タイムリーな表題に惹かれ話しを聞きました。それが、上記インタビュー記事の内容です。

きりんぐみは、「へいわまつり」後も様々な場面で「へいわ」について考えつづけています。私も、考えつづけていきたいとおもっています。

11月の予定			12月の予定		
7	月	身体測定	8	木	避難訓練
10	木	内科健診	12	月	身体測定
18	金	～21（月）製作展	14	水	誕生会
17	木	避難訓練	23	金	クリスマス会
30	水	誕生会	29	木	弁当日（27(火)～29(木)：保育協力日）

※29(木)は、18：00までの保育となります。
※12/30(金)～1/4(水)年末年始休園日
今年も大変お世話になりました。
来年もどうぞ、よろしくお願い致します。

ご意見いただきました

□　児より、保育者から威圧的だと感じる対応を受けているとの訴えがあった。改めてほしい。
→反省とともに、改善にむけた対応を行っていきます。

ご意見、ありがとうございました。